

美文字を生み出す小さな手

小松玲雄君が文部科学大臣奨励賞を受賞

第64回西九州小中学生書道大会表彰式が9月14日、長崎新聞文化ホール・アストピアで開催され、御厨小学校2年の小松玲雄君が最高賞の文部科学大臣奨励賞を受賞しました。

大会には、県内外の小中学生3,805人から作品の応募があり、1次審査を通過した427人が即席大会に出場。学年別に設けられた課題を会場で手本なしに清書し、書の腕前と感性を競いました。

小松君は、「即席大会は緊張しましたが、賞状と大きなトロフィーをもらえてうれしかったです。もっといろいろな大会に出てみたいですよ」と受賞の喜びと抱負を話しました。



まちの話題

Matsuura City Topics

応急手当で救える命

救急医療週間

海のふるさと館漁村体験学習施設で9月13日、心肺蘇生法とAEDの取り扱い体験、119通報体験などが行われました。

9月7日から13日までの「救急医療週間」に合わせ、救急業務に対する理解と認識を深め、救急車の適正利用と応急手当の重要性を呼び掛けるために開催されました。

屋外で行われた救急現場活動シミュレーションでは、実際に消防署員が応急手当から救急車で搬送されるまでを再現し、その様子を見学者たちは真剣なまなざしで見つめていました。



地域のみんで長寿をお祝い

敬老慶祝式典

9月15日の敬老の日にちなみ、市内各地では趣向を凝らした敬老行事が開催されました。

毎年、町全体で敬老行事を開催している今福町では、敬老の日に合わせて「今福地区敬老慶祝式典」（今福地区社会福祉協議会・今福公民館共催）が東部交流センターで開催され、町内の70歳以上のお年寄り約350人が出席しました。

式では、米寿を迎えた人と金婚夫婦に記念品が贈られたほか、式後の演芸の集いでは、今福保育園の園児らによるお遊戯、地区婦人会や文化団体による舞踊や詩吟が披露され、参加したお年寄りたちは楽しい時間を過ごしました。



力作が勢ぞろい!

市民文化祭（作品展示）

『松浦市民文化祭（作品展示）』が9月13日から15日までの3日間、文化会館で開催されました。

会場には小・中学生の夏休みの作品や高校・一般から寄せられた書・写真・絵画など730点の作品を展示。

また、今年はオーストラリア・マッカイ市との姉妹都市提携25周年を記念し、マッカイ市の子どもたちの絵画が展示されました。

昨年の県展で入賞・入選した作品や名誉市民の故・辻利平さんの作品も展示され、会場を訪れた人たちは、作品の一つ一つを感じた様子でじっくりと鑑賞していました。



元気いっぱい土俵入り！

天満神社奉納子供相撲大会

天満神社願成就祈願祭・奉納子供相撲大会（天満神社主催）が9月23日、調川町にある天満神社の境内で行われました。

この行事は願成就・豊作のお礼と子どもたちの健全育成を願って毎年開催されています。

今年は幼児や児童約40人が参加。体の小さい子が

大きい子に、また、女の子が男の子に勝つと、観客から大きな声援と拍手が送られ盛り上がりました。

参加した子どもたちは土俵で元気いっぱいに相撲を楽しみました。



大切に使います！

御厨地区保健環境連合会

御厨地区保健環境連合会（川畑喜久雄会長）が9月17日、御厨小学校に掃除用具を寄贈しました。

今回の寄贈は、校内の清掃活動を通して子どもたちの環境美化への意識向上を図るとともに、本年度から田代・大崎・御厨の3つの小学校が統合し、新たに誕生した御厨小学校の門出を記念して行われました。

児童を代表して6年生の吉元優奈さん、藤村こころさん、末武海聖君に川畑会長から目録が渡されると、3人の児童は「貴重な品を頂きありがとうございます。大切に使用させていただきます、きれいな学校にしていきたい」とお礼を述べました。



納税の推進に貢献

納税組合功労者表彰

長年にわたり納税組合長として、納税の推進に貢献された人たちに贈られる納税組合功労者表彰の贈呈式が9月24日、市役所で行われました。

式では、友広市長が「税は行政の根幹をなすもの。皆さまのご労苦にお応えできるような市政運営に努めてまいります」とあいさつし、納税組合長として10年以上活躍し退任した人に感謝状を、勤続15年を迎えた人に表彰状を贈りました。

被表彰者は次の通りです（敬称略）。

【感謝状】

- 浦田堯也（志佐・庄野）
- 山本勇三（御厨・郭公尾）
- 谷口始（調川・白井）
- 崎村唯俊（志佐・笛吹）
- 中田哲雄（今福・東新町）
- 辻川康充（星鹿・青島）
- 松口鐵郎（星鹿・星鹿）

【表彰状】

- 池野晋一（星鹿・川原辺田）



幻想的な明かりに魅せられて

土谷棚田の火祭り

日本棚田百選に選ばれる福島町の土谷棚田で9月21日、土谷棚田の火祭り（ふくしまおいどんが町づくり会主催）が開催されました。

この火祭りは、日本夜景遺産にも認定されており、当日は市内外から約4,500人の見物客が棚田を訪れました。

夕日が沈み辺りが薄暗くなると、棚田に設置された2,700個の灯籠に火が灯り始め、夕闇が深くなるにつれ、柔らかな明かりが棚田を幻想的な景色へと変えていきました。

